

令和元年度 第3回 若い教師と共に学び合う自主セミナー実施報告

【実施日時・場所】令和元年11月16日（土）福島大学

【テーマ】見方・考え方を「働かせる」とは？

新学習指導要領完全実施目前の今、様々なキーワードが出てきている中、今回のセミナーでは、「見方・考え方を『働かせる』」ことについて理解を深めたり、実際に演習を通して体験したりしました。12名と少ない人数でしたが、非常に密度の濃い学びがありました。

【セミナーの様子】

講義「見方・考え方について考える」（文部科学省教科調査官 鳴川哲也 先生）

本県出身の文部科学省教科調査官の鳴川哲也先生より、見方・考え方やそれを働かせることについて、具体例を踏まえながらお話いただきました。見方・考え方を働かせるには知識が必要であること、一つの事象を見る時に一人一人が多様な見方・考え方を働かせていること、子どもが働かせた見方・考え方を受容し、共感することなどをお話いただきました。参加者は見方・考え方についての理解を深めることができたようでした。



演習「見方・考え方を『働かせて』みよう」

※参加者が撮影した写真は、次ページに掲載



子どもが見方・考え方を働かせている姿を捉えるためには、まずはわたしたち教師が見方・考え方を働かせる体験が大切だと思います。そこで、見方・考え方を働かせながら大学構内を散策し、写真を撮影して発表するという演習を行いました。参加者は、普段何気なく見ているものを、見方・考え方を働かせて見ることで問いをもったり、解釈をしたりしながら楽しんで写真を撮影していました。

参加者一人一人が撮影した写真について、どんな見方・考え方を働かせて、どんな解釈ができるかを話し合いました。比較の考え方を働かせて共通点や相違点を見つけたり、色や形といった造形的な見方・考え方を働かせて事象に意味付けをしたり、言葉による見方・考え方を働かせてポスターの助詞の違いから伝えたいメッセージを解釈したりしました。

「そんな見方があるのか!」「なるほど。そう見ると、たしかに疑問だね」など、参加者同士多様な見方・考え方に共感しながら解釈を出し合う姿が印象的でした。



<参加者の感想>

領域別の見方が具体的に分かりました！

今まで多面的な見方を大切にしていたつもりでしたが、結局あれもいいね、それもいいねになってしまって、ただただ曖昧に広がって終わってしまっていました。

それが見方の着眼点の違いが分かることで、（共通性のある見方、時間的な見方など）その見方の価値が明確になり、本当の意味での多面的な見方になるのではないかと思いました。

教師の価値付けが具体的に、子ども同士も見方のよさが分かったり、見方の広がりを実感できたりすると思いました！

今回学んだ見方はどの教科にも言えることで、今回の理科を糸口に全教科につながる見方の全体像が少し見えてきました。来週からの授業が楽しみになりました♪

次回の若教セミナーは、令和2年1月18日（土）です。今回のセミナーで、見方・考え方を「働かせる」ことについて考えたので、今度はこれを授業デザインにつなげて考えていきたいと思っています。案内ができましたら、SSTA 福島支部ホームページに掲載しますので、ご覧ください。どんな方でも参加可能ですので、ぜひご参加いただき、みんなで学び合しましょう！

興味をもたれた方は wakakyo.seminar.jimukyoku@gmail.com にご連絡ください。

（文責：事務局 野口）

～ 参加者が撮影した写真集 ～（一部抜粋）

あなたはどんな見方・考え方を働かせて、どんな解釈をしますか？



大学構内のゴミ箱を見てみると、燃えるゴミの表示がすべて赤色で、燃えないゴミの表示がすべて水色でした。「色」という「造形的な見方・考え方」を働かせると、色のもつイメージでゴミ箱を一目で識別できるようにしていると考えることができます。



講義棟のスペース。何気なく見ると、水たまりがあり、雨が降ったことがわかります。しかし、よく見ると、水たまりがある部分とない部分があります。「比較」の考え方を働かせると、水たまりの有無で、その場所の高低がわかります。きっと水たまりがある場所は、ほかの場所に比べて低くなっており、水がたまりやすくなっているのかもしれない。



「この発展“を”続けますか」

「この発展“は”続きますか」

助詞である「を」と「は」に注目すると、文章から伝わる印象が変わります。このように「言葉による見方・考え方」を働かせると、似たような言葉でも、作者がどのようなメッセージを伝えようとしているかをより一層味わうことができます。